



「仲光」



「土蜘蛛」

能楽師

大西 礼久さん Onishi Fumihisa

川西市在住。親世流能楽師。重要無形文化財保持者（総合指定）。9月20日(日)にみつなかホールで公演するかわにし能では「仲光」や「土蜘蛛」など川西ゆかりの演目を上演。10月のみつなかオペラにも所作監修として携わっている。

能楽で川西の歴史を伝える

能楽の家に生まれて

江戸時代初期から続く能楽の家に生まれ、3歳の時に「老松」という演目で初舞台を踏みました。稽古は父につけてもらい、父の真似をするように台詞を繰り返していたのを覚えています。

昔からずっと能楽が好きです。父は若い頃、別の道へ進むことを考えていた時期もあったようですが、私はそのような思いを抱くことはなくやってこられました。それは、幼い頃に稽古や舞台のたびに家族が褒めてくれたからだと思います。思い返せば、私が能楽の道が好きになるよう、周りの人たちが導いてくれたのでしょね。

能楽師として生きる覚悟

15歳の時、「小鍛冶」という演目で、初面（はつおもて）（一人前の能楽師として、初めて面を掛けて舞台に立つ

こと）を経験しました。

終わった後、今まで優しかった祖父が「まだまだだな」とぼつりと言いました。初めて厳しい言葉を掛けられた瞬間でした。この言葉が私に能楽師としての自覚を芽生えさせ、この道で生きていく覚悟を持つきっかけとなりました。

歴史あふれるまち川西

川西には14年前前に引っ越してきました。利便性が良く、とても住みやすいと感じています。また、学生時代によく遊びに来ていたので、思い入れがある場所ですね。

現在、子どもから高齢の人までを相手に、能楽（仕舞や謡）を指導しています。趣味の人には楽しく、玄人をめざす人には厳しく指導をしています。今後も積極的に後継者を養成し、日本の伝統芸能である能楽を継承していくつもりです。

かわにし能は、今回が初。能楽の世界に初めてふれる人でも、親しみやすい演目を選びました。清和源氏発祥の地である川西においては、源満仲公や多田院が有名ですが、他にもさまざまな歴史や逸話が残されています。皆さんには、能楽を通じて地元の歴史を知ってもらって、郷土愛をさらに育んでもらいたいと強く思っています。

CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。

1：家族の安全・安心を○るために今、できること 2：空き○を有効活用しませんか

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、9月10日(木)（消印有効）までに〒666-8501・広報広聴課「クイズ」係へ。

※8月号の正解は（感）（ナ）で、118件の応募がありました。



7月末現在の人口



男……………74,114人（-62）
女……………82,509人（-46）
計……………156,623人（-108）
世帯数…70,373世帯（-11）